

第5学年道徳科学習指導案

日 時 令和6年11月15日(金)
第5校時 13:05～13:50
対 象 第5学年1組 24名
授業者 廣田 元嗣
会 場 第5学年1組 教室

1 主題名 相手の思いに応えて B(感謝)

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 命を守ってくれたおばあさんへの感謝を忘れないめぐみさんの姿などを通して、相手の思いに応えるためにできることを考えさせ、温かなつながりに感謝し、善意に応えようとする実践意欲を育てる。
- (2) 教 材 「おばあちゃんからもらった命」

3 評価の視点

自己を見つめる	人と人の温かなつながりに感謝し、善意に応えようとすることの大切さについて考えている。(発言)
多面的・多角的に考える	友達の考えを聞き、身の回りの人々に対する感謝の気持ちには、さまざまな感じ方や表し方があると気づいている。(発言)
自己の生き方についての考えを深める	自分を支えてくれている人の思いに応えるために、自分には何ができるかを考えている。(発言・ワークシート)

4 主題設定の理由

本主題は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

特別の教科 道徳 内容

B 主として人とかかわりに関すること

〔感謝〕第5学年及び第6学年

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

(1) 価値観

私たちの生活は、家族などの身近な人々から、見えないところで日々の生活を支えてくれている人々まで、多くの人々のおかげで成り立っている。このことに気づき、感謝の気持ちをもつとともに、家族をはじめとする人々の善意に応えるために、自分でできることは何かを考えることは、社会で生きていくうえで大切なことである。人から助けられたとき、今度は自分が周囲の人々を支えたり助けたりできる人になろうとする意欲をもつことは、温かな人間関係や思いやりのある社会を形成することにつながっていく。

(2) 児童観

これまでに児童は、「B 感謝」の学習で「家族など生活を支えてくれている人々や、友達や上級生など自分に対して思いやりの心をもって接してくれる人々に対して、尊敬と感謝の気持ちをもって

接すること」について学んできている。周囲の人々に温かい心で接することのよさを感じられるようになっている。しかし、社会科などで自分たちの食生活を支えている生産者の苦労や私たちによりよい物を届けようとする努力について知っても、直接関わりのない人に対して感謝の気持ちをもつということまでは難しい。特に一番支えてもらっている家族に対しては、支えてもらうのがあたりまえであると感じていたりする子もいる。そこで、この時期に、周囲の人々に支えられているからこそ、今の自分があることを認識するとともに、その支えに感謝する気持ちを深めていくことが大切である。そして、その感謝や尊敬の念から、周囲の人々に対して自分は何ができるのかを考え、受け取った善意に応えようとする実践意欲を育みたい。

(3) 教材観

【教材の概要】

広瀬めぐみさんが介護福祉士として働くきっかけには、阪神・淡路震災での出来事があった。震災発生当時、中学3年だっためぐみさんは、受験勉強のために、おばあさんの家で寝ていた。地震の揺れで崩れた家の天井やはりから、めぐみさんを守るようにして覆いかぶさったおばあさん。めぐみさんは、そのおかげでかろうじて息をすることができていたが、おばあさんの頭を抱えていた右手をずらしたとたん、おばあさんの頭に、落ちてきたはりが出た。めぐみさんに頬をさすられながらおばあさんは亡くなり、めぐみさんは、深い後悔と自責の念を負うことになる。

そんなめぐみさんが介護福祉士の仕事を知ったのは、高校2年のとき。「おばあちゃんへの恩返しのため」と、資格を取る決意をした。震災から3年経った犠牲者追悼式で、めぐみさんはおばあさんの形見の指輪をはめて、遺族の代表として挨拶をします。めぐみさんは、今でもおばあさんのことを思い出して右手が震えることがありますが、指輪を握ると震えが止まるようになりました。おばあさんの形見の指輪に語りかけます。「おばあちゃんから命をもらいました。」「今度は私が恩返しをする番です。」「おばあちゃん、ありがとう。生きてて、ほんまに幸せです。」

【教材活用の視点】

本教材では、「B 感謝」のうち「日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。」を重点的に押さえない。

めぐみさんは、命をかけて自分を守ってくれた祖母に感謝し、その行為への恩返しとして介護福祉士の資格を取得した。その姿からは、自分自身の生が助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える様子が見て取れる。

本教材で書かれている、「おばあちゃん、ありがとう。」というめぐみさんの家族への感謝からは、「C 家族愛、家庭生活の充実」との関連を、また、阪神・淡路震災での人の生死を扱った題材であることから、「D 生命の尊さ」との関連を図ることも可能である。「B 感謝」を多面的・多角的に考えさせる際の参考にしたい。

5 手立て

① 児童が問題意識をもてるようにする

道徳科の主体的な学びについては、児童生徒が問題意識をもつことで、自己を見つめたり、道徳的価値を自分自身との関わりで捉えたり、自己の生き方について考えたりすることができると考える。そのための指導の工夫として、授業の導入等で、これまでの体験を想起したり、事前のアンケートに

より、問題となる実態を知ったりする。さらには、教材から話し合うべきところを児童が見付けることで問題意識をもって授業に臨めるようにしていく。こうして解決したい、みんなで話し合いたいと思う問題に出合うことにより、意欲的に考え、主体的に学ぶことができるようになると思う。

② 「個別的な問い」について

道徳科の授業で教材に出合った児童は、これまでの経験や価値観と結び付け、疑問をもったり登場人物に自分を重ねたりして考える。そこから生み出される問いは児童の問題意識そのものであり、本来は多種多様となる。授業の中で、自分事の問題意識をもって考えるためには、「個別最適な学び」の学習の個性化に焦点をあて、それぞれが問題と捉え、考えたいという思いのある問いを追究し、納得解を導けるようにしていくことを大切に、その納得解こそが児童が自己の生き方についての考えを深めることにつながると思う。

③ 事前学習について

事前学習を朝学習に位置付ける。「価値についての事前アンケート」で、道徳的価値についてこれまでの自分の経験や課題を振り返ることで、児童は自己理解を深め、問題意識をもって授業に取り組めるようにする。また、教師も児童の道徳性を把握し、授業づくりに生かす。

④ 道徳科の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

事前学習により、児童は問題意識をもち、自分事として道徳的諸価値に向き合う。この主体的な思考は、「友達の考えも知りたい」という思いに繋がり、必要感のある「協働的な学び」へとつながる。自分の考えを話しやすくするために小集団の場を設定した後に、全体で意見を共有することで、多面的・多角的思考をさらに広げることにも効果があると思う。さらに「協働的な学び」を終末の「個別最適な学び」に生かしていくことは、今後の自己の生き方につながる納得解を導き出すための手立てとなる。多面的・多角的思考をさらに広げるために、ICTの活用も有効だと思う。ICTの活用により、小集団での話し合いを共有しやすくするだけでなく、共有したことを基に話し合いを活発にすることが期待できる。

⑤ 「個別の問い」と「主題」

「個別の問い」は「主題」を解決するために児童が考えたい問いであり、一人一人が自分に合った「個別の問い」を選択し、学習を通して追究する。「個別の問い」は、教師があらかじめ主題やねらいに沿った発問を四つ程度用意する。児童はそこから、自分の経験と結び付け問題意識に合うものを一つ選択する。議論を通して、自己の生き方につながる納得解を導き出すことができるよう、多様な考えが出る発問を「個別の問い」として整理した5分類11種類の発問例（参考：千葉大学教育学部）を基に、授業で活用する教材からねらいに迫る「個別の問い」を設定する。今後は、自分で問いを立てるという選択肢もつくり、さらに「個別の問い」が自分事で考えられる問いになるようにしていく。個別の学びが孤立した学びとならないよう、「主題」は共通の問いとする。また、「主題」があることで、「個別の問い」での学びを生かし、道徳科の重要な学びである価値理解、自己理解、他者理解を深めることができると思う。

発問の分類	パターン	発問例
問題解決的な 発問	自分ならどうするか。 どうしたらよいか。	自分が主人公の立場なら、どうしますか。そうすることができますか。
	本当ならば（できれば）どうしたいか。	～の状況になったとき、本当ならどうしたいですか。
	望む結果になるためには、どうすればよいか。	～になる（ならない）ようにするには、どうすればよいでしょう。
	どうしたら互いに納得できるか。	皆が納得できるようにするためには、どうしたらよいでしょう。
吟味を促す 発問	それぞれの考えの共通点や相違点は何か。	～に共通した思いは何でしょう。また、どこがどう違うのでしょうか。
	どれが最も納得できるか。	〇つの方法から、どれが最も納得できますか。
批判を促す 発問	本当にそれでいいのか。	登場人物が～したことは、問題がないと言えるでしょうか。
	その考えは本当に正しいのか。	登場人物のような～という考えは、本当に正しいと言えるでしょうか。
創造を促す 発問	別の考えはないか。 別の解決策を考える。	A と B 以外に、別の考えはないでしょうか。
自我関与を促す 発問	登場人物の行動を支える道徳的価値は何か。	〇〇の行動を支えた思い（気持ち）は何でしょう。
	登場人物の言動（判断）をどう思うか。	登場人物が～したことについて、あなたはどのように思いますか。

6 本時の指導

（１）本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 ○手立て ◎評価
事前 朝 学 習	1 主題について自分の考えをもつ。 ○「思いに応える」とは、どのようなことだと思いますか。 2 個別の問いを選択する。 A 父の言葉を聞いてあなたならどんなことを思いますか。 B めぐみさんが介護福祉士を目指したことについて、あなたはどのように思いますか。 C ふるえる右手に指輪をはめて、遺族代表のあいさつをしためぐみさんを支えた思いは何でしょう。	○事前アンケートにより、児童一人一人に自分の経験や知っていることをもとに主題についての考えをもたせる。 【指導の個別化】 ○それぞれが問題と捉え、考えたいという思いのある問いを追究できるようにする。 【学習の個性化】

	④ 「今度は、わたしが恩返しをする番です」という言葉には、どんな思いが込められていると思いますか。	
導入 5分	3 主題についての事前アンケート結果を確認する。 ○アンケートの結果を見て、みんなはどんなことを考えたのか確認しましょう。	・テキストマイニングを活用し、学級全体のアンケート結果を分析・集約したものを提示する。 ○多様な考えに触れさせ、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもって主体的に学習に取り組めるようにする。 【協働的な学び】
展開 前段 10分	4 同じ個別の問いを選んだ友達とグループで話し合う。 ○グループごとに自分の考えを話しましょう。	・話し合いのガイドを提示し、充実した活動になるようにする。 ○対話の時間を設けることで、自他の思いや考えを比較したり、共感したりしながら考えを深めさせる。話し合い出た意見はデジタル機器を活用してまとめさせる。 【学習の個性化】【協働的な学び】 ◎友達の考えを聞き、身の回りの人々に対する感謝の気持ちには、さまざまな感じ方や表し方があると気づいている。(発言)
展開 後段 15分	5 グループの話し合いを共有し、主題について考える。 ○グループで話し合ったことを発表します。それをもとにして主題について考えましょう。	・祖母の死により様々なことを考えるめぐみさんに自我関与させ、自分を支えてくれている人たちの存在に気付かせる。 ○デジタル機器の利活用によって、一度に多くの思いや考えを共有できるようにし、自他の思いや考えを比較したり、共感したりしながら考えを深めさせる。 【協働的な学び】 ◎人と人の温かなつながりに感謝し、善意に応えようとする大切さについて考えている。(発言)
終末 10分	6 自己の生き方について考えを深める。 ○自分を支えてくれているだれかの思いに応えるために、自分には何ができるかを考えて行動したことはありますか。これまでの生活や今日の学習を振り返りながら書きましょう。	◎自分を支えてくれている人の思いに応えるために、自分には何ができるかを考えている。(発言・ワークシート)